

(別様式)

地域の読書ボランティア等への講師派遣事業

「官民協働による地域に根差した子どもの読書活動推進のあり方」について

～びぜん子ども読書ネットワーク～

1 事業のねらい

平成22年4月に「備前市子ども読書活動推進計画」が策定された。そして、同年7月に、この計画の趣旨に賛同した官民の子ども読書関係者の参画を得て、「びぜん子ども読書ネットワーク」を設立した。その後、子ども読書関係者の人材養成やネットワーク構築、学習成果を発揮する場の設定に関する取組等を行ってきたものの、まだ、活動の歴史が浅く、官民協働による地域に根差した活動というところまでには至っていない。子どもの生きる力と豊かな心を育むには、本ネットワークを中心とした活動を発展させていくことが必要不可欠である。そこで、本事業により、関係者の資質向上を図る取組並びに本活動の意義・重要性を広く広報・啓発するための取組を推進し、今後につながる基盤づくりを行うことをねらいとする。

2 日程・会場・参加者

・ 実行委員会

第1回：6月15日(金)	会場(備前市市民センター)	21名
第2回：9月5日(水)	会場(備前市市民センター)	18名
第3回：3月12日(木)	会場(備前市市民センター)	19名

・ 研修会等

第1回：7月12日(木)	会場(備前市市民センター)	参加者 37名
第2回：9月5日(水)	会場(備前市市民センター)	参加者 32名

びぜん子ども読書まつり

パート1：1月27日(日)	会場(備前市市民センター)	参加者 138名
パート2：2月17日(日)	会場(備前市市民センター)	参加者 153名

3 事業の特徴、工夫点

- ・ 子ども読書関係者の資質の向上のために、ニーズに応じた内容の研修やネットワークの構築を図るために互いが交流できる機会を設けた。さらに、日ごろの活動や研修等の成果を発揮するため、「びぜん子ども読書まつり パート2 おはなし会スペシャル」では、子ども読書関係者が中心となって、おはなし会を企画・運営した。
- ・ 大人も子どもも本の世界を楽しむとともに市全体の子どもの読書活動推進の機運を高めることを目的とした「びぜん子ども読書まつり」を開催した。
- ・ 研修会や「びぜん子ども読書まつり」の開催にあたり、報道関係者にも協力を依頼するなど、市内をはじめ、近隣市町にも広く広報・啓発活動を行った。

(別様式)

4 事前準備等具体的な事業の流れ

びぜん子ども読書ネットワークは、市内の学校園職員や公立図書館司書、子ども読書ボランティア、子育て関連のNPO法人、公民館・社会教育担当課職員が参画し、官民協働による地域に根差した子どもの読書活動の推進をめざしている。各々の団体等の代表から構成される代表者会議では、前述のねらいに迫るため、参加者のニーズや実態等を考慮しながら、PDCAサイクルの取組を展開している。



代表者会議

今年度は、昨年度立ち上げた事業（研修会・びぜん子ども読書まつり）を定着させるための取組と新たな人材の発掘・養成を図ることで、本ネットワークの活動のステップアップをめざした。

研修の内容としては、子どもの読書活動の意義・重要性をはじめ、選書の仕方や読み聞かせの技法といった実際の活動時に必要な知識や技能が学べる機会を設けた。また、子ども読書関係者のネットワーク構築を図るための交流活動もプログラムに入れ、参加者が楽しい雰囲気の中で研修に取り組みよう工夫した。「びぜん子ども読書まつり」では、「大人も子どもも楽しめる」ことをコンセプトにし、パート1では、絵本作家による「絵本ライブ」と「記念講演会」、パート2では、「おはなし会スペシャル」の二部構成で実施した。（詳細は「5 研修会等の様子」参照）これらの取組の中には、本ネットワークメンバーが講師を務めたり、おはなし会を開いたりといった機会も設け、学びの成果を発揮できるようにした。また、会の運営にも、主体的に関わるような仕組みを設けることで、官民協働による子どもの読書活動の推進を図った。

以上の取組を報道関係者にも働きかけて、保護者や子ども読書関係者をはじめ広く参加を呼びかけたり、事業後にも、取組の様子を広報したりして、市全体の機運も高めるようにした。

5 研修会等の様子

(1) 第1回たのしい読み聞かせ勉強会

「楽しく学ぼう 今から始める読み聞かせ講座」

おはなしグループ「そらきたホイ！」 相賀 美幸 堀江 潤子

おはなしグループ「そらきたホイ！」によるスキルアップを目的としたおはなし会の実践発表及び子どもの成長に合わせた読書支援のあり方についての講話。

「参加者みんなで作って楽しもう！」

パネルシアターの世界」

子育てネットきらきら 杉田 久美子

パネルシアターの実演及び制作実習を通じた参加者同士による交流。

参加者の感想

・「読み聞かせをする」ということが、いつの間にか目的になっていました。お二人から、子どもの発達段階に応じた読書支援の仕方を教わり、大変参考になりました。



第1回たのしい読み聞かせ勉強会

(別様式)

もう一度、「何のために」というところを考え直して活動していきたいです。

- ・パネルシアターは、作って楽しく、見て楽しいものだと思います。みんなで作成したこの作品が活用されて、子どもたちに喜んでもらえたらうれしいです。
- ・4月から子どもの通う幼稚園で読み聞かせボランティアを始めたばかりだったので、このような勉強会があればよいなと思っていました。とてもうれしかったです。ためになりました。

(2) 第2回の楽しい読み聞かせ勉強会

「絵本や物語の楽しさを子どもたちに ~ボランティアとして子どもたちに本を読むということ~」

めじろ文庫 赤松 百合子

子ども読書活動の重要性や子どもの発達段階に応じた選書のポイント、関わる大人の心構えについての講話。

参加者の感想

- ・目新しく、子ども受けの良い本に関心が集まってしまいがちでしたが、心に残る名作も、子どもに与えていなくてはという思いを持つことができました。
- ・子どもにとって、心の支えとなるような質の良い本を読み聞かせていけたらなあと思いました。自分自身も、もっと本を読んで勉強します。



第2回の楽しい読み聞かせ勉強会

(3) 平成24年度びぜん子ども読書まつり

【パート1】絵本作家 川端 誠さんによる絵本ライブ&記念講演会

第1部 絵本ライブ

自作絵本の制作過程や作品に込められた意図等の裏話も交えた絵本ライブ。

第2部 記念講演会 「絵本とともに旅をして」

絵本の制作過程の苦労や工夫についての講演。

【パート2】おはなし会スペシャル

日ごろの活動や研修会での学習の成果を発揮する場として、びぜん子ども読書ネットワークに参画する子ども読書関係者によるおはなし会を就学前の子どもと小学生の部屋に分けて実施。



びぜん子ども読書まつり パート1

参加者の感想

- ・絵本1ページ1ページの細部にまで気をつけて描かれていることがよくわかり、絵本を見る目が変わりました。また、作家さん自らが作品の裏話や思いなどをお話くださったので、絵本って奥深いな、すばらしいなと思いました。
- ・「おはなし会スペシャル」というだけあって、読み聞かせだけでなく、手遊び・ペープサート・新聞紙シアターなど色々な形でお話をしてくださったので、子ど



びぜん子ども読書まつり パート2

(別様式)

もたちが目を輝かせて最後まで見ることができました。

- ・読んでもらった本を子どもが気に入ったので、家でも読んでやろうと思います。親子で楽しめる催しを開いてくださり、ありがとうございました。

6 成果と今後の課題

本事業を進めた結果、官民の関係者が集い、市内の子どもの読書活動推進をみんなで考え、それぞれの立場だけでなく官民協働によるアクションも起こしていこうという体制が整った。個々が学び、それを情報交換・交流して互いに高め合い、さらに、その学習成果を発揮できる場や仕組みについても設けることで、「知の循環」が促進され、地域全体の教育力の向上を図ることができた。今年度は、これまでの活動経験の有無を問わず、研修会に広く参加を呼びかけたことにより、新たな人材を発掘することができた。また、本ネットワークの活動以外の場面でも、互いの交流が活発になったことも、成果の一つであると考え。今年度最後の代表者会議でも、来年度も、これらの取組を継続・発展させていくことを全会一致で確認することができた。

本ネットワークの取組により、「びぜん子ども読書まつり」をはじめ、親子で本に親しむ機会が拡充し、市全体の子ども読書活動推進の機運が高まった。

この取組を地域に根付かせていくには、活動の継続が第一条件となる。そのため、一時的なものにならぬよう、無理なく活動が展開されるよう工夫していかななくてはならない。併せて、引き続き、地域に取組を広く周知し、活動に対する理解を深めることができるような効果的な広報活動も必要である。

今年度整備することができたこの基盤をもとに取組を持続・発展させていくことで、今後も、子どもの読書活動の推進を図っていきたい。